

須雲川から元箱根に至る旧東海道は、当時の旅人の歩いた石畳の街道の遺構が残っています。

鎌倉時代までの東海道は湯坂路と呼ばれ、小田原方面から湯坂山～鷹ノ巣山～芦之湯へ至る道でした。

江戸時代になり、須雲川沿いに新たに街道を整備し、東海道として多くの旅人が行き来しました。

明治時代には、国道 1 号は箱根七湯を通るルートとなり、東海道としての役割を終えました。

現在は須雲川自然探勝歩道として整備され、当時の面影を今に残しています。



YOSEGI-Chan

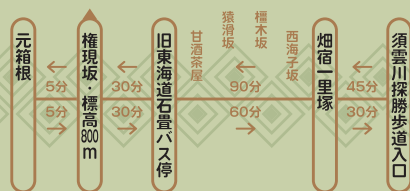


箱根町文化遺産活性化実行委員会

〒250-0315

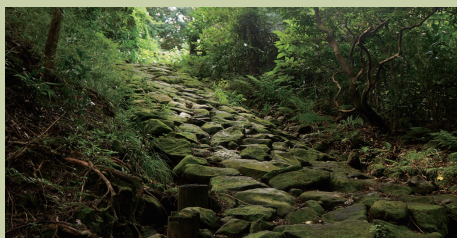
神奈川県足柄下郡箱根町塔ノ沢 74 (福住楼内)

監修 箱根町教育委員会



全長 6.2km 所要時間のほり約 3 時間・くたり約 2 時間

みどころ
旧東海道石畳



旧東海道の石畳はもともと竹敷きでした。しかし、交換に多額の費用が必要なことから石畳敷きに変わりました。石畳には江戸時代の土木技術の知恵がうかがえる、斜めの排水路などが点在しています。

文化庁の令和 2 年度文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)の一環として作成しています。



須雲川と畑宿は江戸時代、東海道沿いに小田原宿と箱根宿の間にある「間の村」として、茶屋が営まれ、険しい山路を往く旅人たちが休憩に立ち寄りました。

人々は街道に関わる仕事に従事しながら、街道土産として人気の高い箱根細工を生産で生計を立てていました。

特に畑宿では江戸時代後期に寄木細工も造られるようになり、その美しい製品が店頭に並ぶ様子をシーボルトが紀行文で紹介しています。

